

 <p>市長 柴田 浩</p>	<p>愛知県 おわりあさひし 尾張旭市</p> <p>幸せつむぐ 笑顔あふれる 尾張旭</p> <p>尾張旭市イメージキャラクター 「あさびー」</p>	<p>【データ】※令和6年4月1日現在</p> <p>人口：83,816人 世帯数：37,287世帯 面積：21.03㎢ 市の花：ひまわり 市の木：くすのき 特産物：いちじく、プチヴェール イベント：あさひ健康フェスタ等</p> <p>「健康都市 尾張旭」と 「あさびー」は令和6年度 に20周年を迎えます！</p> 
--	---	--

■ 尾張旭市の紹介

尾張旭市は、愛知県の北西部に位置し、名古屋市の中心部から約15kmと、通勤、通学などに恵まれた立地にあります。

北部には、市域の6分の1(3.62㎢)を占める愛知県森林公園(昭和61年全国森林浴100選の森に選定、令和元年6月2日に「第70回全国植樹祭」を開催)をはじめとして、樹林地や公園、大小のため池などがあり、身近なところで豊かな自然にふれあうことができるバランスのとれたまちです。



■ おいしい紅茶 日本一のまち・旭色

尾張旭市は、平成23年に日本紅茶協会が認定する「おいしい紅茶が飲める店」が日本一多い市(人口一人当たり店舗数)となり、「おいしい紅茶 日本一のまち」として、魅力とにぎわいのあるまちづくりを進めています。現在は、市と市観光協会が一体となり、地域ブランドとしての定着化やさらなる魅力創出を行うため、「紅茶」と市の特産品の「いちじく」を活かして、市内飲食店が魅力商品の開発を行う「旭色」プロジェクトを推進しています。

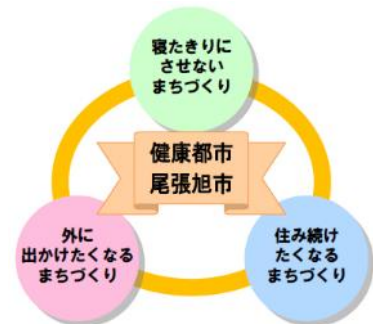


■ 健康都市としてのあゆみ

尾張旭市は、平成16年6月にWHO(世界保健機関)西太平洋地域健康都市連合に加盟し、同年8月に「健康都市宣言」を行いました。翌年4月には、健康都市連合日本支部設立の発起人メンバーとなり、同年12月に「尾張旭市健康都市プログラム」を策定、令和6年度に20周年を迎えます。

「尾張旭市健康都市プログラム」では、「寝たきりにさせないまちづくり」、「外に出かけたいくなるまちづくり」、「住み続けたいくなるまちづくり」の3つを施策の方針として定め、まち全体で「健康都市 尾張旭」をめざしています。

健康都市連合国際大会では、市民の皆様と進めている健康都市のまちづくりが評価され、これまでにWHO及び健康都市連合から多くの表彰を受けています。



■ 健康都市の取組

◆ 自主グループによる筋力トレーニング

日常生活に必要な筋力の維持・増進を図り、将来にわたって自立した日常生活を送ることができるよう、市と健康づくり推進員が協働で「らくらく筋トレ体操」を広めています。

地域の公民館や集会所を利用することで、地域コミュニティが形成され、生きがいづくりや閉じこもり予防も図られています。令和6年3月末現在、66の自主グループ、約1,400人が取り組んでいます。



(らくらく筋トレ体操)

◆ 食育紙芝居・レシピの玉手箱

尾張旭市食育ラボは、手作りの食育紙芝居を市立保育園で披露しています。食べ物を4色に分け、それと同色で手作りの衣類を着て紙芝居をすることで、わかりやすく「食」の大切さを伝えています。また、市民向けに「レシピの玉手箱」として市広報誌に美味しく食べる工夫をした健康メニューを定期的に紹介しています。



(保健福祉センターで紙芝居を披露)

◆ ニュースポーツ体験会・あさひ軽々楽々ウォーキング

スポーツ推進委員が主催するニュースポーツ体験会は、市民の体力向上や健康の維持・増進を図るため、誰でも気軽にスポーツを楽しむことができ、こどもから高齢者まで自ら進んで運動できるきっかけづくりとなっています。また、委員が企画・運営を行う「あさひ軽々楽々ウォーキング」では、市内の自然を感じられるコースを選定するなど、誰もが意識的に運動に取り組むきっかけづくりの場となるよう取り組んでいます。



(ニュースポーツ体験)

◆ 健康都市とSDGs

本市は、平成30年度からSDGsの取組を推進しています。最初に、「健康都市 尾張旭」の特徴的な事業である「あさひ健康マイスター」とSDGsとの関連等の考察を行い、その後、毎年4月29日の「尾張旭市 健康の日」に開催する「あさひ健康フェスタ」をはじめとし、「市民祭」等のイベントや市民講座等を通じて、健康都市とSDGsの取組について啓発しています。



(市民へ出前講座)